

# 令和4年度学校自己評価システムシート (県立本庄高等学校 全日制課程)

n05

目指す学校像	活力ある進学校～個性を伸ばし、持続可能な社会のリーダーとして世界にはばたく「高い志」を持った生徒の育成～
--------	--

重点目標	1 質の高い学びを実現するカリキュラムマネジメントの実践及び、授業の工夫改善とICTの活用を図る。 2 学校行事、部活動及び探究活動の活性化と、第1志望を実現する進路指導を充実させる。 3 国際理解教育及びSDGs教育と、地域に開かれ信頼される学校づくりを推進する。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価								学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標					年 度 評 価 ( 月 日 現 在 )			実 施 日 令 和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	○授業・進学指導・補習・オンライン授業等について生徒・保護者共に満足度は高い。今後は教職員が必要と感じている更に高い目標に向かう意識と大学入試改革に応じた実力を高めるための取組を進める必要がある。 ○コロナ禍への対応も含め、臨機への対応を、ICTも活用して充実させる必要がある。 ○新学習指導要領への対応や、観点別学習評価を生かして学習意欲の向上を引き出す必要と、共通テストへの対応、入試の不易と流行を考慮した対応と指導を継続する必要がある。	①進学実績向上に向けた取組の実績。ICTの活用。	①-1 企画委員会、教育課程委員会を中心とした、進学校にふさわしい授業確保。学習支援・進路指導體制の充実。特進クラスの実績を全校で生かす。 ①-2 授業へのICT活用を継続・強化するための取組の実践と教員間での共有。BYODを用いた通信回線の活用。	①-1-1 企画委員会を中心に学校運営体制の見直し検討が進んだか。 ①-1-2 生徒アンケートで補習・学習支援に関する項目が90%を超えたか ①-2 授業へのICT活用・緊急時への対応は進み、広がったか。					
		②新学習指導要領を踏まえた教員の授業力の質的向上。大学入試に対応した取組の実践。	②-1 定期テストの共通化、模試分析会の実施など、模試や検定の活用。観点別評価を生かすための教科会の一層の活性化。 ②-2 教育課程委員会を中心とした教育課程・教育内容の検討。教員相互の授業力向上に向けた取組の実践。	②-1 生徒アンケートで「わかる授業、力をつける授業を行っているか」が8割を超えたか。模試や検定の受験が拡大し、それを生かしているか。 ②-2-1 大学入試改革・目指す学校像に合わせた教育課程の検討が進んでいるか。 ②-2-2 教員相互の授業力向上の取組が行われたか。					
2	○学習活動と、生徒主体の学校行事や部活動の両立を奨励し、探究活動を意識した実践を進め、自ら学び、自ら活動する「高い志」を育てる。 ○学年と進路指導部が連携した組織的で、きめ細かい進路指導を実現する。 ○一般受験で第1志望の大学進学を目指す進路意識の育成と学力の向上を進める。	①自律の精神が生かされた工夫ある学校行事。文武両道の実践。部活動の活性化	①-1 部活動参加者の増加と活動の活性化、自立と工夫ある学校行事の充実。 ①-2 コロナ禍に厳しく対応しながらも『部活動に係る活動方針』に基づく適正かつ充実した部活動運営。	①-1-1 生徒アンケートで学校行事に関する項目が充実しているかが8割を超えたか。 ①-1-2 生徒アンケート「生徒の自主的活動が活発」が8割を超えたか。 ①-2 生徒アンケートで「学習と部活動が両立できている」が7割を超えたか。					
		②第1志望の進路を実現する進路意識と学力の向上	②-1 きめ細かい科目選択指導・個別指導実施と、入試改革に伴う的確な進路情報の提供と指導。 ②-2 生徒の的確な実情把握と進路検討会を活用した適切な進路指導。学年・進路指導部を中心とし、教科会の組織力を生かした計画的進学補習の充実。	②-1 生徒アンケート「進路指導はきめ細かい指導か」が8割を超えたか。 ②-2 個々の状況に応じた指導の充実度を測る視点として、3年次の進路指導の細かさ満足する生徒が8割を越えたか。					
3	○「我らは世界と共にあり」(校是との言える校歌の一節)に見合い、世界を舞台に活躍する意欲を育てる国際理解教育、SDGsに係る教育を充実させる。 ○求める生徒像の明確化を踏まえた組織的・計画的な生徒募集の実践。 ○百周年を契機として、期待に応え、生徒や同窓生が誇れる伝統校としての存在を堅持し、発展させる。	○百周年を機に、更なる誇りを持ち、持続可能な社会を目指す現在において必要な、世界を感じる国際理解教育の推進と自ら学ぶ学習意欲の向上。	①オーストラリア姉妹校との連携の継続(オンラインの活用と現在まで培った経験の継承、渡航再開時の準備)及び多方面での国際交流事業の推進。 ②各教科や行事で、持続可能な社会の担い手を育てる意識で取組を進める。 ③ アクティブラーニングや探究活動など生徒の内なる学習への意欲を高め、学びのアップデートを実現する。 ④生徒の力を生かし、百周年関連の行事を滞りなく、効果的に実施する	①オンラインを活用した連携が実現できたか。他の国際交流の取組を行うことができたか。今までの経験を継承できているか。 ②SDGsについての学習機会の創出など、ESDに取り組み、持続可能な社会構築に資する生徒を育てる意識を持った教育活動が実践できたか。 ③生徒アンケート「学校は生徒の個性や能力を伸ばしている」が8割を超えたか。 ④百周年は生徒の誇りや学校の活性化と将来につながったか。					

